
いつか

紫堂 涼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
いつか

【コード】
N1998Z

【作者名】
紫堂 涼

【あらすじ】
「愛してる」

君はこの言葉を言う時、いつも哀しそうだった

(前書き)

もはや出尽くした感のある設定ですが、一度はやってみたかった
冬のお話です

哀しい話が苦手な方は回れ右

「大好き」

そう言ってくれた君の声が今も耳にこだまする。

「愛してる」

そう囁くように告げた君の顔は泣いているかのようにだった。

「触れたい」

……そう呟いた君の声は、風の音に掻き消された。

音の欠片をすべて吸い込んでしまう銀世界。

脈を打つ鼓動の音しか聞こえない中、宇宙のような黒い空から舞い降りてくる雪。

小さな小さな雪の結晶が降り積もる音が聞こえてきそつで目を閉じた。

「冷たいな……」

ふんわりとした雪を赤くなった指先で掬い上げると、自分が雪を降らせているかのように、はらはらと指の間を零れ落ちる欠片たち。

（けれど僕は、暖かな雪を知っている　　）

出会いは、ほんの一年前。

今と同じようにぼんやりと空から降る雪を眺めていた時だった。

「ねえ、知ってる？雪の結晶って、綺麗な言葉をかけたら、綺麗な結晶になるんだって」

いつか話題になった本にあった。

偶然知っていた俺は、突然そんな言葉が放たれた後ろを振り返る。

「汚い言葉をかけたら、ちゃんとした形にもならないんだって」

僕の返事など期待していないのか、空に向かって語りかけるような少女がいた。

「人の身体のほとんどって、水で出来てるんなら、やっぱり、綺麗な言葉をかけたら綺麗な人になるのかな」

そんな、他愛も無い言葉から、すべては始まった

会うたびに、綺麗な言葉ばかりを繰り返した。
形だけだった言葉に想いがこもったのがいつからかなんてわ
かない。

「今日も、綺麗だね」

そんな僕の言葉にはにかむように笑った笑顔が愛しかった。

「可愛い」

その言葉には嬉しそうに微笑んだ。

「好きだ」

だけど、その言葉には、悲しそうな笑顔しか浮かばなかった。

けれど、君は僕に大好きと繰り返す。幸せそうなその顔をもっと
見ていたかった。

僕の言葉で、もっと幸せそうな顔をさせたかった。

いつも一歩離れた距離にいる君の、もっと近くに行きたかった…
…。

「もう会えない」

そんな言葉は聞きたくなかった。

「どうして」

突然の言葉に戸惑う僕に、君はいつものように愛しそうに告げる。

「大好き」

「俺も好きだ」

そう返す僕に、やはり君はいつものように哀しそうに微笑んだ。

「愛してる」

別れを告げながら、そんな言葉を囁く君に、初めて声を荒げそうになった。

「なら、どうして」

その言葉は、最後まで言えなかった。

冷えたからだ。

触れた唇。

触れなかった吐息。

冷たい感触だけをこの身に残し、君は一瞬で消えた。

「……今も、愛してる」

あの時と同じように、空を見上げ、この心を届けるように呟く。

雪の化身。

言われなくても、しぜんとわかっていた。

触れる事は出来なくても、ただ傍に居たかった。

無情にも君は、一瞬の感触だけを僕に与え、その容かたちを失った。

「愛して、いる」

いつか、この言葉が君に届くように。

いつか、この心が君に届くように。

いつか、再び会うことができるかもしれない、そんな思いを胸に抱きながら、僕はまたこの季節に恋焦がれる

(後書き)

あれですな、冬といえば雪女に雪ん子。綺麗だけど悲しいお話が似合います。

冬の冷たさと、雪の儚さ。

雰囲気重視でいってみました(・・)(ゞ

そして珍しく最初から最後まで一人称だ!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1998z/>

いつか

2011年12月7日04時47分発行